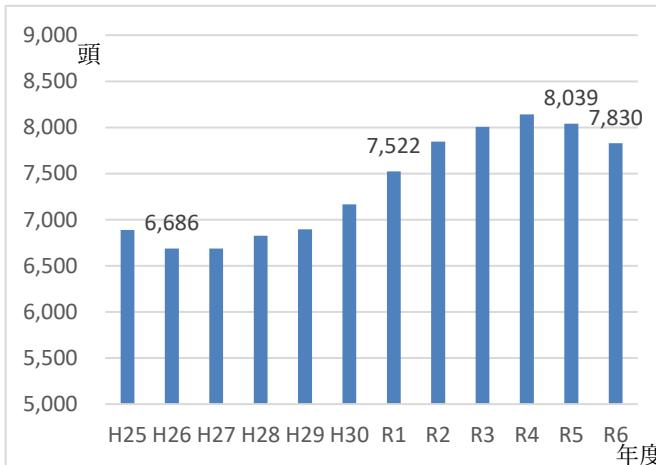


「肉用牛生産の拡大」の進捗状況

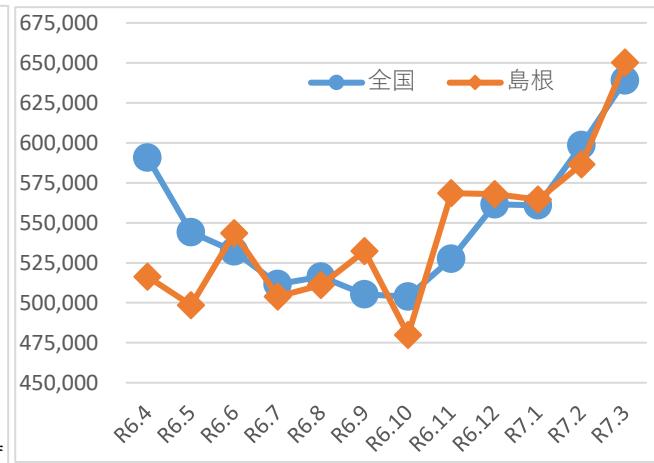
畜産課

○令和6年度末の進捗状況

【子牛生産頭数の推移】



【和牛子牛価格の推移】



- (1) 令和3年以降の全国的な資材価格高騰や子牛価格低迷の影響もあり、子牛生産頭数は前年から209頭減少しましたが、取組前（R元年）に比べると308頭増加しました。厳しい経営環境により、令和6年度は、新たな自営就農開始がありませんでした。一方、意欲ある生産者に対して、超優秀雌牛県外導入（4頭）や雌牛の更新・増頭（134頭）を支援し、生産基盤を整備しました。
- (2) 枝肉成績は、上物率・枝肉重量ともに全国平均レベルまで向上し、しまね和牛の改良は着実に進展しています。引き続き、ニーズに沿った改良を推進するため、令和6年8月に（一社）家畜改良事業団と「肉用牛の改良に関する包括的連携協定」を締結し、体制を整えました。
- (3) さらに、全国トップの産肉能力を持つ種雄牛「暁之藤」（令和6年2月県基幹種雄牛選定）の認知が広まったこともあり、令和6年度後半からは、子牛市場の取引価格も全国平均レベルで推移しています。また、特定疾病の陰性を表示して有利販売を目指す生産者の自主的な取組も始まりました。
- (4) しまね和牛の認知度向上に向け、飲食店でのメニューフェアや観光分野と連携した取組を行ったほか、民間（料理人グループ）へのPR活動を行いました。また、令和6年6月から県内食肉施設からの牛肉輸出が始まり、需要拡大への期待が高まっています。
- (5) 島根県の肉用牛生産の特徴である“放牧”を拡大するため、公共放牧場の整備を支援しました。また、県産飼料の生産・利用拡大（耕畜連携の取組）を推進し、多くの取組が進んできています。（増加量 6,382 t）